

北前船（瀬戸家）

瀬戸家は北前船による交易が栄えた時代に財を成した瀬戸家の邸宅です。個人宅を利用した資料館となっており、瀬戸家の末裔である瀬戸照子さんによって先祖伝来の家財の数々が美しく丁寧に保存・展示されています。瀬戸家は石川県小松市の安宅地区にいくつかある日本遺産のうちの1つです。安宅は、18世紀半ばから1900年代にかけて瀬戸内海と日本海を通過して大阪から北海道まで行き来した北前船交易の寄港地として発展しました。北前船の船主は莫大な富を蓄え、現在も残る見事な屋敷を建てました。3艘の船を所有していた瀬戸家代々の邸宅を訪ねれば、木材をふんだんに使った天井の高い玄関や、動植物が贅沢に描かれた襖、さらにはきらびやかな着物や帯、宝石、巧みにデザインされた多くの身の回り品などでいっぱいの1906年の嫁入り道具などを見ることができ、往時の優雅な暮らしに足を踏み入れたような気分になります。

素敵な案内役である瀬戸さんは、長年かけて保管庫から救い出した先祖伝来の家宝について調べ、それが繊細な彫刻のほどこされた象牙の根付であろうと、上品な懐中鏡であろうと、あるいは和紙に刷られた挿絵入りの分厚い和歌の巻物であろうと、手に取ってみよう快く見学者に勧めてくれます。奥にある物置ですら、別の時代について物語る品々に満ちた驚くべき空間となっています。見学者が展示品をじっくり見て回る間に、瀬戸さんが蓄音機のビクトローラをかけてくれることもあります。展示品の中には、船員から瀬戸家に届いた手書きの手紙を利用した淡い光を灯すちょうちんなど、瀬戸さんが別の目的に再利用したものもあります。

北前船による交易ルートは、鉄道網が構築され、より安くて安全な蒸気機関車による陸上輸送手段が確立されたことで、1890年代に入るとすぐに衰退しました。1904年から1905年の日露戦争で北海道周辺の海域が商業船にとってあまりにも危険になったため、20世紀に入ると最初の10年でほとんどの船が姿を消しました。

瀬戸家の見学には予約が必要です。観光案内所 (explorekomatsu.com/en/contact) にお問い合わせの上、ご予約ください。

小松市内で開催されるイベントの情報はこちらまで explorekomatsu.com